
ifの太平洋

赤城

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ifの太平洋

【コード】

N0917H

【作者名】

赤城

【あらすじ】

みなさんがあの戦争でもし、こうなっていたら・・・そう考えたことはありませんか？それを小説にしてみたのがこれです読んでみてください

真珠湾奇襲攻撃（前書き）

もし考えが違っていたら言うてください参考にさせてもらいます！

真珠湾奇襲攻撃

大日本帝国軍空母 「赤城」 艦橋内・・・

山本「いよいよだな・・・」

南雲「そうですね長官」

艦橋ではなにやら話し合いが行われているそれはこれからの作戦についてである・・・

この日は1941年12月8日 そうこれからの作戦とは・・・

「真珠湾奇襲攻撃」である

そして赤城等から艦載機が飛び立ってしばらくするとあわただしく兵士が駆け込んできた

兵士「電信です！」

山本「そうか、読んでみてくれ」

その兵が読み上げるまでの一瞬緊張が走った。

兵士「トラ　トラ　トラ・・・長官！これは！」

山本「うむ、我奇襲二成功セリ、だな！」

この報告に一同が胸を撫で下ろした。しかし一人神妙な顔つきの人
がいた

山本五十六司令長官である。

山本「これでとうとうアメさんと真っ向から対立してしまった、
しかし、これも運命・・・腹をくくるしかないか。」

この作戦の報告により日本国内は歡喜に沸き立ち
英雄たちとたたえたのであった。

真珠湾奇襲攻撃（後書き）

おもしろいかどうかは分かりませんがどんどん連載するつもりなのでよろしくお願いします

決戦！ミッドウェーにありー！(前書き)

決戦！ミッドウェーにあり！

ここは赤城艦橋内・・・

ここには二人の提督がいた・・・

その二人とは南雲中将と山口少将である・・・

なぜこの二人が同じ艦のいるかというと

実際に航空隊指揮が得意なのは山口少将とわかっていただのだが
名目上南雲機動部隊にするべきだという意見がでたからである

この判断がどんな結果を生むかまったく予想できなかった・・・
艦橋に伝令が響きわたる

「敵艦隊見ゆ！空母3重巡7駆逐艦14！」

南雲「敵さんのお出ましか」

山口「腕が鳴りますね」

1時間後・・・

赤城、加賀、飛龍、蒼龍の零戦隊はグラマンやコルセアと勇敢に戦
っていた

そのとき隊長機から全機降下の指示があった

米パA「おい！ジャップのゼロが降下したぞ！突入だ！」

米パB「イエッサー」

このとき腹にこたえる音が聞こえたのには誰もきずかなかった・・・
10分前・・・

山本「主砲射撃準備！三式弾を使い目標南雲機動部隊上空1000メ
ートル！」

を狙え！全艦に伝えろ！発光信号でだ！」

高柳「了解！主砲射撃準備！」

山本「あと2分で発射だ！しっかりやってくれ！」

1分50秒後・・・

高柳「主砲！撃てーっ！」

そのときその場にいた戦艦すべてが全砲門から鉄の塊を打ち出して
いた

10分後・・・

赤城艦橋

南雲「総員！衝撃に備えよ！」

山口「航空部隊・・・耐えてくれよ・・・」

見張り員A「敵機直上！艦長！」

青木「大丈夫だ！信じる！」

その瞬間機動部隊の上で激しい爆発があつた

そう山本大将率いる大日本帝国軍連合艦隊主力の三式弾の攻撃である

南雲「おお！見事だ！」

山口「さすが山本長官ですね！」

南雲「そのとおりだ！ハツ、ハツ、ハツ！」

さっきまであれほどいた敵機はほとんど見当たらない・・・

吹き飛んだ敵機の搭乗員に五体満足のものはいないだろう

味方は健在である、勝機だ！

全航空機は第一、第二攻撃隊に別れ発進しろ！

青木「了解！」

この後一時間ほどで敵部隊は壊滅

残りの敵機は熟練の零戦パイロットに打ち落とされるか
海に不時着するだけであつた・・・

決戦！ミッドウエーにあり！（後書き）

やっとiefの始まりです！意見があればどんどん投稿してください
！参考にさせていただきます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0917h/>

ifの太平洋

2011年1月25日08時36分発行